

平成 30 年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 14	公益目的事業 19
主査名	高見淳史 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授	
研究テーマ	新しいモビリティサービスと総合的都市交通計画	
<p>申請者ら研究メンバーは、平成 29 年度研究プロジェクトにおいて、近年の計画制度の変化もさることながら、モビリティに関わる新たな技術やサービスが登場しつつある昨今から近未来にかけてを都市交通計画・都市計画の重要な転換点と認識し、その登場や普及の動向を踏まえつつ、それらを都市の中へ受け入れるにあたっての計画論に関する検討を行ってきた。本研究提案は後述のようにこれを発展させ、分析ならびに計画論の検討を一層深めることを目的としている。具体の研究課題として以下のトピックを予定し、4 回の研究会を、毎回研究メンバーまたは外部講師からの報告に基づいて討議を行う形式で進める。</p> <p>まず、申請者らは過年度来、多様な個別の交通サービスを統合的に利用者へ提供する「統合モビリティサービス (IMS : Integrated Mobility Service)」の概念を整理し、その分析枠組みとして Multi-Cycle Model (MCM) を提案している。平成 29 年度研究プロジェクトでは、大都市圏郊外部向けの IMS として「Metro-MaaS」を提案し基礎的な需要評価を行うとともに、仮想の地域を対象にオペレーターサービス供給者間の契約形式の違いがもたらす影響を MCM に基づいて分析した。平成 30 年度研究プロジェクトではさらに実都市で取得した SP データの分析を通じ、IMS のサービス設計における MCM の適用性を明らかにする。加えて、新しいモビリティサービスが展開されることによるアクセシビリティや居住地選好の変化といった中長期的に現れうる影響についても検討の範囲を広げ、土地利用サイドをも含めた“総合的な”都市交通計画に有用な知見を得ることを目指す。</p> <p>また、平成 29 年度に実施し取得予定である自家用車相乗りの受容性に関する調査データを用い、パーソントリップデータと併せて分析することで、相乗りのマッチング成立可能性や都市交通への影響を検討することも計画している。</p> <p>これらに加え、新しいモビリティ技術・サービスや、国内外の都市における計画の事例など、関連する各種動向の情報を収集することを予定している。以上を踏まえ、総合的都市交通計画の計画論の方向性や研究課題について議論する。最終的に、これらの成果をとりまとめ報告書を作成する。</p>		